

「いっこの子どもMちゃん」

豊橋市立南部中学校 二年

杉山 このみ

今年の夏、岡山県から2人の子どもを連れて、い
とこが遊びに来てくれました。

今回、いとこ達が来るにあたり、母から聞かされ
たのは、いとこの子ども長女、3歳のMちゃんが
最近、ADHD（注意欠如・多動症）と、ASD
（自閉症スペクトラム）という発達障害があると診
断されたということでした。

私は元々、小さな子どもに対して苦手意識が強
く、そのことに加えて障害を持っていることもあ
り、心の中では正直身構えている部分がありまし
た。

ですが、実際に会って一緒に過ごしてみると、思
っていたよりも自然に打ち解けることができ、安
心しました。

打ち解けるきっかけになったのは、母の、Mちゃ
んに対する接し方を見たことです。

母は、自分の姪っ子の子どもということで、特別
かわいく感じるらしく、おもちゃをいくつも持参し
て、Mちゃんと遊ぶことに、とてもわくわくしてい
ました。

Mちゃんは、母とおもちゃで遊んでいるとき、す
ごく楽しそうに笑っていました。

2人の姿を見ていると、いくつかの発見がありま
した。

その内の一つは、物事を切り替えさせるときの工
夫です。

例えば、夜ごはんを食べるとき、Mちゃんが見て
いたタブレットをやめてもらいたくて、母が一度声
をかけたところ、「イヤ」という答えが返ってきた
ので、次に、「おばさん、タブレットの切り方知ら
ないから教えてくれる？」と聞くと、すぐに「いい
よー」と言って切ってくれました。その様子を見
て、私は本当にびっくりしました。

そして、いとこのMちゃんに対する接し方を通し
ても、心が動かされました。

それは、Mちゃんの、一歳になったばかりの弟
が、いとこのひぎで抱っこされていたときのこと
です。その子が、持っていたおもちゃを床に落として
しまったのですが、いとこが、「ねこの宅急便さー
ん、おもちゃを拾ってください。お願いしまー
す。」と頼むと、すぐに拾って弟に手渡してしまし
た。いとこはとっても優しい表情でほほえみ、Mち
ゃんに「ありがとう、ねこの宅急便さん。」と頭を

なでてあげていました。Mちゃんは「ニャー」とう
れしそうに鳴いてもどってきました。

このようなことを通して、私もがんばってMちゃ
んと遊んでみようかな、と思っていると、Mちゃん
の方から私に興味を持ってくれたようで、こっちを
じっと見てきたり、「ねんどでこれ作って。」と言わ
れたりするようになりました。私はそれに応えて、
いっしょにねんどで遊んだりしました。途中で、抱
っこをせがまれたので、少しドキドキしながら抱っ
こしてあげました。出来るだけ高く抱き上げてもら
いたかったようでしたが、恐るおそる抱っこしてい
たので力が入らず、Mちゃんの期待には応えてあげ
られませんでしたが、いい経験になりました。

私は、今までほとんど発達障害について知りませ
んでしたが、母から本を借り、少し知識を得ること
ができました。

いつまたMちゃんに会えるかは分かりませんが、
療育機関に通い、作業療法や言語療法を受けるよう
になるMちゃんがこれからどんな風に成長してい
くのか楽しみにしていきたいなと思いました。

今度は自分から話しかけたりできるようになりた
いなと思います。